

コウノトリ



毎週月曜日更新

# カタカタ通信

第230号

2026年5月25日

## 「ヒナの足環つけ」

今回は、この時期恒例、ヒナへの足環つけのお話をしたいと思います。コウノトリは見た目でも個体識別するのはなかなか難しい鳥です。さらに



こちらは黒い足環

野外で飛んでいるコウノトリを見た！なんて時には、見た目の特徴をとらえるのは至難の業になってしまいます。そこで、野外のコウノトリには「足環（あしわ・あしかん）」をつけて個体識別をしています。足環をつけることで「誰と誰がペアになった」「この個体がどこまで飛んで行った」「個体の年齢」など

様々な情報を容易に得ることができるようになります。

今回、天空の里では初めての、ヒナへの足環つけです。「野田自然共生ファーム こうのとりの里」の方よりご指導いただきながら行いました。

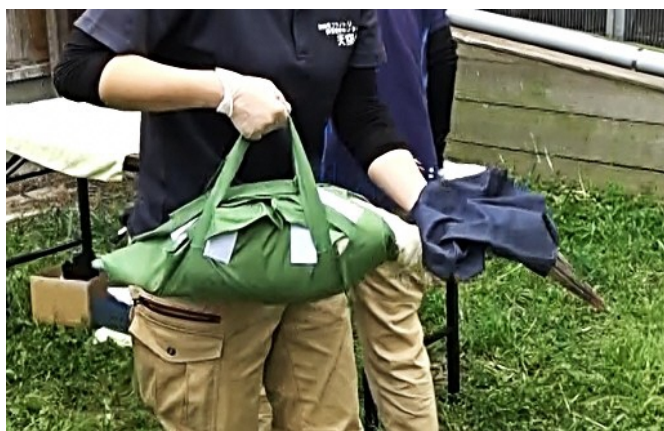
当日の流れは①ヒナと親を分け、②ヒナを捕獲し、③足環をつけ、④ヒナを巣に戻し、⑤親と合流、というものです。

まずは、①親鳥との隔離です。鳥がパニックにならないよう、ゆっくりと動き誘導します。空も花も暴れることなくケージの奥へ移動してくれて、無事に隔離することができました。ふう…。

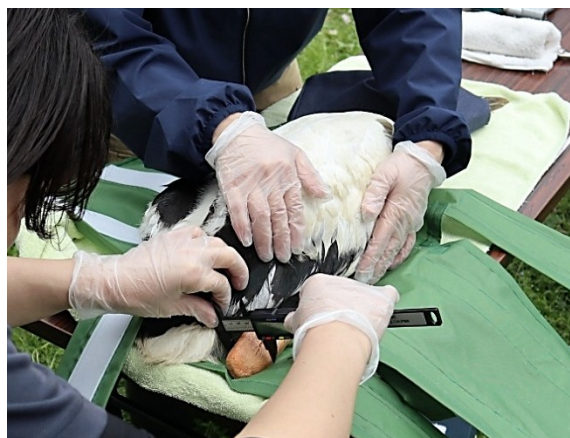
そして、②ヒナの捕獲です。この時期のヒナには、人が近づくと「しんだふり」をして動かなくなる習性があり、簡単に捕獲することができるの

です。「素早く丁寧に…」ドキドキしながらヒナに目隠しをし、保定用の布で包みます。

巣のすぐ横に設置した作業机へつれていき、いよいよ③足環つけと測定や検体採取を行います。検体採取とは、健康診断や雌雄判別のために、ヒナの血液などを採取することで、獣医師が行います。体の大きさの測定は、くちばしの先から尾羽までの「全長」、足環が引っかかるかかとの幅、嘴の長さや幅などを計測しました。



保定布にくるまれたヒナ



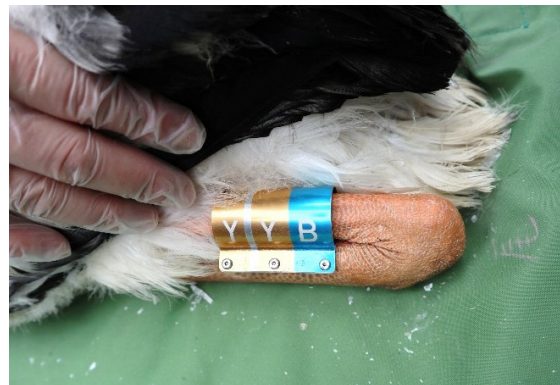
かかとの幅 計測中

幸い当日は気温が低く、ヒナへの暑さの負担は大きくない状況でしたが、できる限り早く巣に戻してあげたい…、と焦る気持ちもありつつ、計測を行いました。

計測が終わると、足環つけです。アルミ製のリングを、慣れない工具で取り付けていきます。ヒナの体に負担がかからないよう、ヒナの自然な姿勢をキープしたまま作業をしていきます。



足環取りつけ



つきました！

しっかりと足環を取り付けて、作業完了です。④ヒナを巣に戻し、⑤親と合流させます。すぐに空が飛んできて、ヒナの様子を確認していました。その後すぐに花も飛んできました。ヒナも落ちついて立ち上がったり、餌を食べたり、日常に戻った様子でした。これで一安心です。

今回つけた足環を利用して、末永く多くの人々に観察してもらえるように、まずは2羽のヒナを無事に放鳥したいとあらためて実感しました。

天空の里 鴻巣市コウノトリ野生復帰センター

飼育担当：こば